

地域観光資源の韓国語解説整備支援事業

地域観光資源の韓国語解説文作成のための

ライティング・スタイルマニュアル

観光庁

2024年3月

## はじめに

本マニュアルは、「地域観光資源の多言語解説整備支援事業（以下「観光庁多言語事業」という）」にて作成された英語解説文を元に、韓国語圏からの外国人旅行者（以下「韓国語圏旅行者」という）の立場に立ち、日本の観光資源の魅力を伝える韓国語解説文を作成するための、制作会社の翻訳者・エディター等向けのマニュアルです。

日本の文化や歴史、自然、食について学ぶ体験が満足のいくものであれば、その韓国語圏旅行者は再び日本を訪れたり、友人に日本への旅行を勧めたりするでしょう。訪日外国人旅行者に向けた解説は官民一体となった受入環境整備の施策等により徐々に整備されつつありますが、韓国からの訪日旅行者に向けた解説文は少ないだけでなく、誤訳や用法、表記の異なる単語が散見されるなど、量・質共に不足している状況です。本マニュアルの目的は、韓国語解説文の作成に際し、作成方法や表記の統一的な基準を示すことによって、混乱を防ぎ、翻訳と編集の作業を円滑に進めることです。本マニュアルに沿って作成を進めれば、翻訳者とエディターは日本の観光資源を韓国語圏旅行者に魅力的に、かつ分かりやすく紹介することができます。

第1部「韓国語の解説文作成の進め方」では、韓国語圏旅行者にとって魅力的で分かりやすい韓国語解説文の作成の進め方を概説するとともに、各作成工程における実践的な注意点をまとめています。第2部の「スタイルガイドライン」では、この事業において基準となる文書規範や表記法を示しました。

本マニュアルは、既存のガイドライン及び韓国語編集における国際的な慣習に則って作成されています。それぞれのセクションでは、韓国語圏旅行者のための解説文を作成する上での主要な留意点が示されています。本マニュアルの内容は、観光庁の「地域観光資源の多言語解説整備支援事業」における韓国語解説文作成に特化したものです。本事業の対象ではない解説文の作成については、他の資料及び有識者の見解も参考にしてください。

また、事業が継続する場合は、内容を変更する場合があります。

韓国語圏旅行者にとって分かりやすく魅力的な解説文の整備に、ぜひ本マニュアルをご活用ください。

## 目次

<b>第1部：韓国語の解説文作成の進め方</b> .....	<b>4</b>
(1) 韓国語の解説文作成の進め方 .....	4
重要なポイント	4
韓国語の解説文作成ステップ	6
(2) 第1部の補足資料 .....	14
文体（文章のトーン&マナー）	14
媒体の種類と特徴	14
参考資料	15
<b>第2部：スタイルガイドライン</b> .....	<b>18</b>
(1) スタイルガイドライン .....	18
(a) 全般的注意 .....	18
使用辞書	18
段落、フォントなどの書式	18
日本語のハングル表記	19
句読点、引用符などの符号	21
分かち書き	22
文体と文調	22
語句の選択と適切な言い回し	23
文章の組み立てと構文	24
外国人に馴染みのない日本語の名詞と用語	25
その他の注意すべき語句や表現	26
各媒体における執筆ガイドライン	27
(b) 表記方法 .....	29
人物・施設、流派・宗派、生物等の名称	29
暦と時代	32
(c) 数値に関する書式 .....	34
数字の表記方法	34
度量衡	34
温度	36
金額	36
(d) その他の注意事項 .....	36
文化財、天然記念物、世界遺産などの指定について	36
包摂的（インクルーシブ）な表現を用いる	36
訳語の選択	37
温泉の効能について書く時の注意	37
(2) 第2部の補足資料 .....	38
日本の歴史年表	38
神社仏閣	39
自然地名	46
植物	46
動物	48
食・食文化	49
その他	50

## 第1部：韓国語の解説文作成の進め方

### (1) 韓国語の解説文作成の進め方

#### 重要なポイント

#### 1. 日本人と韓国語圏旅行者の間にある日本文化等に関する知識や認識の違いの理解

日本人向けの日本語の解説文をそのまま外国語に翻訳(すなわち直訳)するだけでは、意が伝わらない可能性がある。日本の歴史や文化について背景的な知識を持っている日本人にとって容易に理解できる情報が、外国人旅行者にとっても自然に理解できるとは限らない。観光庁多言語事業で作成した英語解説文は外国人旅行者の目線に沿った内容になっており、日本人にとっては当然のことであるが、外国人が読むにあたっては必要と感ぜられるであろう、背景的な知識も多分に含まれている。そのため、本事業は観光庁多言語事業の英語解説文を元に韓国語に翻訳することとしている。

一方で、韓国と日本は隣国として、歴史、文化において常に影響し合いながら、それぞれの発展を遂げてきているため、韓国語圏旅行者にとって不足または過剰な情報を適切な形で取捨することが必須である。

#### 2. 韓国語圏旅行者の興味・関心の把握

英語解説文では、訪日外国人旅行者の視点から、それぞれの観光資源におけるどのような特徴が彼らの興味・関心を増進し、読み手にとって本当に役に立ち、魅力のある情報提供となるのかを検討し、解説文を作成している。さらに韓国語圏旅行者の満足度を高める韓国語解説文の作成においては、前記の英語解説文を分析して、韓国語圏旅行者にとって魅力となるポイントを押さえることが重要である。特に、①権威性、②独自性、③享楽性、④体験、⑤韓国との縁、といった韓国語圏旅行者の嗜好性要素を盛り込むことが望ましい。

例：

- ①権威性：世界遺産、文化財、ミシュランなど世に公認された権威ある場所またはモノ、著名人と縁のある場所またはモノなど
- ②独自性：絶滅危惧種や地域限定等稀少性のあるモノ、発祥の地など物語として語れるモノ、その土地の生活から非日常を発見できる場所、島国特有の文化や生活など
- ③享楽性：最適な観光ルート、最高の撮影ポイント、最高のグルメ・特産品、100%

源泉の温泉宿、ワンストップ手続きサービスなど、飲食・宿泊・移動などの面において、最善最高のモノまたはサービス

④体験：生け花、茶道、ハイキング、トレッキング、釣り、着物着付、農村体験、宿坊体験、特有の自然環境を生かしたウエルネス・スポーツアクティビティ、サブカルチャー関連（ゲーム・アニメーション・聖地巡礼）など、双方向型・体験型アクティビティなど

⑤韓国との縁：韓国にゆかりのある事物（百済等）、韓国の影響を受けた場所または人物またはモノ、またはその逆で、日本が本家で、韓国に伝わったモノなど  
※ただし、唐辛子を例に、日本から韓国に伝わったモノとして定説だったものが、近年では諸説あるケースも存在するため、歴史的解釈・認識の違いには注意する

### 3. 媒体と地域の特徴に適する文体の設定

韓国語解説文の読み手の属性の他、解説文を掲載する媒体の用途、及び長所と短所を理解し、媒体に適する文体（文章のトーン&マナー）や文字数等を変え、媒体に適した書き方とする必要がある。

文体や文字数を適切に設定することで、解説文の対象となる事物に備わっている雰囲気と、文章の調子や表現形式によってもたらされるイメージが調和し、違和感なくスムーズな情報の伝達が可能になるとともに、旅行者にとっての体験をより満足度の高いものとすることができる（媒体の種類と特徴については、第1部の補足資料を参照。読みやすさ、見た目の統一性、聞き取りやすさに配慮する）。

### 4. 品質の高い韓国語解説文作成のための専門人材の確保

解説の翻訳（英韓翻訳）・編集・校閲等に必要な専門性と経験を備えた人材の確保が重要である。

人材の確保にあたっては、韓国語解説文を作成する対象物の特性（文化財、自然、食文化、伝統、芸能等）と、専門人材が得意とする地域・分野が合致しているかが重要である。

### 韓国語の解説文作成ステップ

工程	実施内容	ポイント	担当者					
			地域	ディレクター	翻訳者	編集者		校閲者
						メイン	サブ	
事業主体者	企画進行管理	韓国語翻訳	韓国語圏旅行者視点	事実確認	韓国語ブラッシュアップ			
事前準備	Step 1 作成体制の構築	経験豊富な人材の起用		◎				
内容検証	Step 2 英語解説文の検証編集	事実確認 韓国語圏旅行者視点からの取捨 追加要素の確認		●		◎	◎	
	Step 3 地域確認①	検証編集結果の確認	◎	●		(●)	(●)	
韓文作成	Step 4 韓国語翻訳	翻訳（一次訳→校閲→日本語仮訳）		●	◎	◎	◎	◎
内容確認	Step 5 地域確認②	日本語仮訳の内容確認 韓国語監修者がいる場合、韓国語解説文の確認	◎	●		(●)	(●)	
最終調整	Step 6 韓国語解説文と日本語仮訳の最終仕上げ	地域の意見を精査し、最終修正調整を行う		●	◎	(●)	(●)	◎
地域納品	Step 7 地域納品	所定の提出様式に収め、地域に納品		●				

【凡例】 ◎：主担当、●：担当、(●)：必要に応じて担当

## Step 1：作成体制の構築

それぞれの役割に適した人材を選出する。本事業で実際に起用した用件を参考に示す。

専門人材の名称	役割	人材要件
翻訳者	英語解説文及び編集者が修正した日本語原稿を基に、地域と媒体の特徴に適した文体表現を用いて、韓国語に翻訳編集する。	韓国語を母国語とし、大卒以上の学歴、5年以上の英韓または英日翻訳歴を持つ者。
編集者（メイン）	英語解説文を韓国語圏旅行者の視点から内容を検証し、必要に応じて取捨、追記、編集する。また必要に応じて、韓国語解説文のブラッシュアップをサポート。	韓国語を母国語とし、ネイティブレベルに近い英語力または日本語力を有する。韓国語圏旅行者の興味・関心を熟知し、かつ日本の自然、文化財、観光等の分野に一定の知見を持つ者。
編集者（サブ）	英語解説文の事実確認を実施し、編集者（メイン）の作業をサポート。	日本語を母国語とし、ネイティブレベルに近い英語力を有し、日本の自然、文化財、観光等の分野に一定の知見を持つ者。
校閲者	韓国語解説文のスタイルと文体に関する規定策定へのアドバイス。韓国語の専門用語や文体に対するチェック・調整・ブラッシュアップを実施。	韓国語を母国語とし、大卒以上の学歴、5年以上の書籍執筆または編集歴を持つ者。
ディレクター	全体企画（検証基準設定・スタイル文体策定）、事務局への定期進捗報告のまとめ及び各作成実務チームへのオリエン、進捗・危機管理を行う。	韓国語を母国語またはネイティブレベルに近い、かつ事業の企画・執行管理の経験が豊富にあり、事業全体の進捗を円滑に遂行できる者。

## Step 2-1：英語解説文の検証と解説文に盛り込む内容の検討

〈ディレクター・編集者（・有識者）〉

対象となる読み手を明確にイメージしながら、既存の英語解説文の内容を検討し、韓国語圏旅行者の視点から①読み手が魅力と感じる要素の追記（事実確認も含む）及び②より分かりやすくするための表現の文体（トーン&マナー）設定の2点における検証作業を行い、韓国語圏旅行者向けの訴求ポイント等の調整を行う。検証結果とその信頼に値する根拠を併せて明記する。

①読み手が魅力と感ずる要素を端的に追記提案する例：

・「縄文遺跡群」

【英語解説文・日本語仮訳】

この遺跡は秋田県鹿角市にあり、8000個を超える石が2つの大きな環状に配置されています。この環状列石は紀元前2000年頃のものであり、その配置から、太陽の動きが把握されていたと考えられます。

↓

【韓国語解説文・日本語仮訳】

秋田県鹿角市にあるこの遺跡は、8000個を超える石を、2つの大きな円形をなすように配置した環状列石遺跡です。この環状列石は紀元前2000年頃のものであり、その配置から、太陽の動きを知るためのものであったと考えられます。

※漢字語であっても、「環状列石」をハングル表記して日本語のように漢字を見て意味が伝わるわけではない。ただし、頻出用語の場合には「これを環状列石といひ、」などという形で逐一説明を加えるのではなく、情報を整理した。

②トーン&マナーの提案の例：

・「富士五湖」(WEB)

【英語解説文・日本語仮訳】

このロープウェイと公園のテーマは、「カチカチ山」という、性悪タヌキに悪さをされた農夫を助けにやってきたウサギが出てくる日本の民話をもとにしたものです。

↓

【韓国語解説文・日本語仮訳】

このケーブルカーと公園のテーマは、「カチカチヤマ (タクタク山)」という、性悪タヌキに悪さをされた農夫をウサギが助けるという日本の民話をもとにしたものです。

【全体的なトーン&マナー】格調を備えた平易な文体

古き日本の伝統文化に相応しい品位を保ちつつ、読みやすい文体が望ましい。

※上記全体の文体を大前提としつつ、内容を整理し、できるだけ洗練された表現とする。

【詳細】外来語であっても、同一の物を示すのに韓国語と日本語で呼び方が異なる場合が存在する。また、「カチカチ」の例のように、物語の名前（固有名詞の一部）である場合、音表記が求められる一方で、焚き木が燃える際の音であることも明確にする必要があるため、韓国語圏旅行者にとって、慣れ親しんだ呼び方に合わせて表現する。

#### Step 2-2 : 地域確認用の日本語仮訳の作成

新規要素及び英語解説文の記載要素を組み合わせ、地域が解説文の内容を確認するための日本語仮訳を作成する。

※地域に韓国語を閲読できる人材がない場合に備え、韓国語の解説文の要素を確認できるように日本語仮訳を用いて地域確認を行う。この段階での日本語仮訳は、韓国語解説文作成前に解説文に盛り込む要素についての内容確認を目的とする。

#### Step 3 : 地域確認①

解説文に盛り込む要素の日本語仮訳を地域に提出し、追加・削除・調整要素等の有無を含めて確認を受ける。また、韓国語解説文作成にあたり、適切な文体について相互で確認を行う。

#### Step 4-1：韓国語への翻訳

本事業では、英韓翻訳を基本としながら、一部日本語の追記・調整内容もあるため、日韓翻訳の知見を有する専門人材（翻訳者、編集者・校閲者）の参加が必要である。

手順1 翻訳・ 文字変換	【翻訳】 英語解説文 ＋ 調整箇所の日本語に準じて 英韓・日韓翻訳者による翻訳編集  ↓
手順2 校閲	手順1の完成原稿に対して 校閲者による専門用語・文体に 対するチェック&全体のブラッシュアップ  ↓
手順3 日本語仮訳	手順2の完成原稿に準じて 翻訳者による日本語仮訳を挿入し 韓国語解説文の初稿完成

#### Step4-2：韓国語解説文の編集・校閲

解説文の内容について、事実関係の正確さの確認、記号の使い方等の書式の確認を含め、全体的に確認する。

〈編集者〉

韓国語圏旅行者にとって分かりやすく魅力的な解説となるように、翻訳者が作成した解説文をブラッシュアップする。

〈編集者・校閲者〉

確認のポイント

- ・ 文体（読みやすさ、トーン&マナー）
- ・ データや数値の正誤
- ・ 一般的な事実関係の確認
- ・ 固有名詞の正誤
- ・ 表記の一致・統一（第2部のスタイルガイドラインに準拠しているか）
- ・ 一般的な誤字脱字 など

※解説文の内容により、文化財や自然などに関する専門的知識に基づく判断が必要である場合は、適切な学術的知見を有する者から適宜アドバイスを受ける。

#### 翻訳・編集時の留意点

- (1) 対象となる読み手をイメージして、設定した文体に常に留意する。
- (2) 読み手の対象範囲は広く想定し、文体や言葉使いなどの面で受け入れられやすいように留意する。
- (3) 想定する韓国語圏旅行者が興味関心を持つと考えられるトピックを含む文章を作成する。自分が対象となる読み手だったら何を興味深いと感じるか想像し、必要な情報を精査して解説文をブラッシュアップする。
- (4) 翻訳者・編集者は、文中のすべての事実の正確性について、複数のソースを用いて確認するとともに、使用した資料を記録しておく。

※事実確認は、原則として地域協議会及び校閲者の役割であり、これらが記載内容の責任を負っているが、翻訳者・編集者においても可能な限り事実を確認した上で解説文に反映させることが望まれる。執筆にあたり不明な点等があった場合は、そのままにせず地域協議会に問い合わせること。

#### 執筆後のチェック事項

- (1) 解説文は、想定する韓国語圏旅行者が尋ねそうな質問に答えているか。
- (2) 解説文は、想定する韓国語圏旅行者が興味関心を持ちそうな地形、歴史的事実、動植物などの情報を盛り込んでいるか。
- (3) 解説文は、想定する韓国語圏旅行者にとって重要な順に情報を提示しているか。
- (4) 解説文は、想定する韓国語圏旅行者にとって未知の可能性がある前提知識を端的に説明しているか。または、韓国語圏旅行者の多くが既に知っている情報について冗長に情報を提示していないか。
- (5) 解説文の情報は、想定する韓国語圏旅行者の日本の歴史・文化への理解を促しているか。

韓国語圏旅行者にとって必要な情報を追加した例：

【英語解説文・日本語仮訳】

キウス周堤墓群（紀元前約 1,200 年）は、縄文時代（紀元前 13,000 年～紀元前 400 年）後半に遡るもので、札幌市の南東方向に位置する千歳市の森林地に位置しています。大きさは直径 30～75 メートルで、その配置は、かなりの計画が行われたうえで配置されたことを示唆しています。周堤は、先史時代の北部日本の集落における埋葬習慣を証明するものです。

↓

【韓国語解説文・日本語仮訳】

キウス周堤墓群（紀元前約 1,200 年）は、縄文時代（紀元前 13,000 年～紀元前 400 年）後半に遡るもので、札幌市の南東方向に隣接する千歳市の森林地に位置しています。周堤墓とは、地面に円形に堅穴を掘り、掘り上げた土を周囲に環状に積み上げることで大規模なドーナツ状の堤（周堤）を作り、その中に複数の墓を配置したものです。大きさは直径 30～75 メートルで、その配置から、綿密な計画のもとに作られたことがわかります。このような周堤墓は、先史時代の北日本の集落における埋葬習慣を証明するものです。

※「周堤墓」の表記は、英語解説文では意味で表現されますが、韓国語の場合は漢字語での表現になり、形状等が伝わりにくいため、韓国語解説文では補足説明を追加しました（下線の箇所）。

〈編集者〉

翻訳者が作成した解説文の表現や内容について確認、調整する。必要に応じて地域協議会等に確認を取り、修正を加える。

Step 4-3：地域確認用の日本語仮訳の作成

前記の翻訳・編集・校閲の作業の成果を集約し、地域が解説文を確認するための日本語仮訳を作成する。

※この段階での日本語仮訳は、解説文自体の内容確認を目的とする。

## Step 5：地域確認②

地域確認用の解説文草稿と日本語の仮訳を地域に提出する。事実関係の正確さ、地域の観光促進戦略との適合性について確認を受ける。

※地域在住の韓国語ネイティブに韓国語解説文の確認を依頼することが望ましい。

## Step 6-1：地域からの修正事項の対応

〈ディレクター・編集者〉

地域からのフィードバックを踏まえ、どの程度修正すべきかを判断する。指摘事項についてそのままよいと判断される点については、地域に対してその理由を説明する。必要に応じて地域や有識者への確認を行う。

## Step 6-2：韓国語解説文と日本語仮訳の最終仕上げ

〈ディレクター・編集者〉

対象となる読み手の視点で分かりやすい解説文になっているかを確認する。修正要求や指摘事項に正しく対応できているかどうかを含め、内容を全体的に確認する。

〈校閲者〉

すべての文章について、文法ミスや表記の不一致も含めチェックを行い、修正・改善が必要な箇所は指摘して編集者等に戻す。

〈翻訳者・編集者〉

戻された原稿の内容を推敲し、校閲者・校正者からの指摘にすべて対応する。

## Step 7：地域納品

納品原稿（韓国語）、納品原稿に対する日本語仮訳を納品する。

## (2) 第1部の補足資料

### 文体（文章のトーン&マナー）

令和5年度の実施地域12地域は大きく「文化財」「観光」「自然」に区分されており、分野ごとの文体は、基本的に下記の通りに設定する。

文化財	<p><b>格調を備えた平易な文体</b> 日本の伝統文化に相応しく、格調高く、重厚感のある文体・文調が望ましい。 【特記】上記文体を大前提としつつ、韓国語圏旅行者にとって、説明不要と思われる箇所を省き、仏教関連箇所は韓国語圏旅行者が慣れ親しんだ表現にする。</p>
観光	<p><b>軽快さを持ち合わせた可読性の高い文体</b> 複合観光地域に相応しく、楽しく、明るく、ワクワクさせることを意識した軽やかな文体・文調が望ましい。 【特記】上記文体を大前提としつつ、自然・レジャー・グルメはワクワク、楽しさを、温泉は安らぎ感、温かみを、歴史・文化は平易、楽しみやすさを意識して、解説文の内容に併せて、テイストを調整する。</p>
自然	<p><b>無駄がなく、麗しさが宿る文体</b> 美しい自然に相応しく、滑らかで、平易で、かつ親しみやすい文体が望ましい。 【特記】上記文体を大前提としつつ、地形、植物、動物など、比較的専門性の高い内容は、子どもも分かるように、できるだけ平易な文体とする。</p>

### 媒体の種類と特徴

主な想定媒体の文体及び文字数のガイドラインは下記の通りとする。

主な媒体	対象者	主な特徴	文体及び文字数
WEB	来訪予定者 (タビマエ)	<ul style="list-style-type: none"> <li>全体像の把握が可能</li> <li>多くの情報掲載が可能</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>観光客に「選択」と「学習」をさせるための媒体</li> <li>多くの情報を適切に整理し、前後の順番、表現の強弱のつけ方に気を付ける</li> <li>地域の特徴が鮮明に分かるようにする</li> <li>1 解説文の文字数は特に規定しない</li> </ul>
パンフレット	来訪予定者& 訪問者 (タビマエ & タビナカ)	<ul style="list-style-type: none"> <li>全体像の把握が可能</li> <li>多くの情報掲載が可能</li> <li>携帯、持ち帰りが可能</li> <li>絵や写真とともに、簡潔な情報掲載が可能</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>観光客に「選択」と「学習」をさせるための媒体</li> <li>多くの情報を適切に整理し、前後の順番、表現の強弱のつけ方に気を付ける</li> <li>地域の特徴が鮮明に分かるようにする</li> <li>1 解説文の文字数をなるべく500文字以内とする</li> </ul>
QRコード	来訪予定者& 訪問者 (タビマエ &	<ul style="list-style-type: none"> <li>携帯、持ち帰りが可能</li> <li>絵や写真とともに、簡潔な情報</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>観光客が「行動」する最中にメインとなる媒体をサポートするもの</li> <li>メイン媒体の邪魔にならずかつしっかり補助できるものにする</li> </ul>

	タビナカ)	掲載が可能	
解説看板 パネル キャプション	訪問者 (タビナカ)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目の前の対象に関する情報提供が可能</li> <li>・絵や写真とともに、簡潔な情報掲載が可能</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観光客が「行動」する最中に目にする媒体</li> <li>・他言語とのバランスを重視する</li> <li>・分かち書きが入っても読みづらい印象にならないように簡潔に、分かりやすい文章にする</li> <li>・1 解説文の文字数をなるべく 400 文字以内とする</li> </ul>
ラミネート	訪問者 (タビナカ)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目の前の対象に関する情報提供が可能</li> <li>・視覚を通して情報提供が可能</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観光客が「行動」する最中に目にする媒体</li> <li>・他言語とのバランスを重視する</li> <li>・分かち書きが入っても読みづらい印象にならないように簡潔に、分かりやすい文章にする</li> <li>・1 解説文の文字数をなるべく 400 文字以内とする</li> </ul>
音声ガイド	訪問者 (タビナカ)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・聴覚を通して情報提供が可能</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観光客が「行動」する最中にメインとなる媒体をサポートするもの</li> <li>・メイン媒体の邪魔にならずかつしっかり補助できるものにする</li> <li>・1 解説文の文字数をなるべく 500 文字以内とする</li> </ul>

- ・媒体化する際は、韓国語でのデザインの経験を持つなど、視覚的なデザインに詳しい人材を起用し、解説の見やすさ、目の引きやすさにも配慮することが望まれる。

### 参考資料

韓国語解説文の作成にあたって参考となる資料を以下に挙げる。本事業では、英語解説文を元にすることから、英語解説文向けの主要参考資料も併せて掲げておく。

- ・各官庁による多言語のガイドライン類

観光庁（2014）「観光立国実現に向けた多言語対応の改善・強化のためのガイドライン」

<https://www.mlit.go.jp/common/001029742.pdf>

【概要】多言語対応を行う際の表記方法、案内などに用いる具体的な対訳語、多言語表記の統一性・連続性の確保について

【対応言語】英語・中国語（簡体字）・韓国語

文化庁・観光庁（2016）「文化財の英語解説のあり方について」

<https://www.mlit.go.jp/common/001142178.pdf>

【概要】文化財の英語解説の改善・充実にあたっての視点、英語解説の取組事例

【対応言語】英語

環境省（2013制定、2022改定）「自然公園等施設技術指針」

[https://www.env.go.jp/nature/park/tech\\_standards/02.html](https://www.env.go.jp/nature/park/tech_standards/02.html)

【概要】自然公園等の外国人を含む多様な利用者に配慮したユニバーサルデザインのあり方（第2部第2章）、博物展示施設（ビジターセンター）や公共標識（サイン類）などの施設のユニバーサルデザイン（第3部第4章・第7章）、多言語表記対訳語集（第4部）

【対応言語】英語・中国語（簡体字）・中国語（繁体字）・韓国語

国土地理院（2016）「地名等の英語表記規程（Notation Rules for Place Names in English）」

<https://www.gsi.go.jp/common/000138865.pdf>

【概要】地名及び施設名の英語表記における標準的な表記方法

【対応言語】英語

国土地理院「多言語表記の地図」

<https://www.gsi.go.jp/kihonjohochousa/multilingual.html>

【概要】国土地理院地図で表記している自然地名・居住地名・交通施設名称等を自動で多言語に変換した地図と、その変換規則

【対応言語】英語・フランス語・中国語（簡体字）・中国語（繁体字）・韓国語・日本語ローマ字

#### ・辞典類

『고려대 한국어대사전』（全3巻） 고려대학교 민족문화연구원 2009年

『韓日辞典』 小学館 2018年

#### ・日本に関する参考書籍

홍윤기 『일본문화백과』 서문당 2000年

일본문화연구회 『일본문화와 지역사정』 지식공간 2022年

최수진 『책과 여행으로 만난 일본 문화 이야기』（全2巻） 세나박스 2022年

이경수他 『알면 다르게 보이는 일본 문화』 지식의 날개 2021年

유홍준 『나의 문화유산 답사기 일본편』（全5巻） 창비 2020年

키시다 쿠니오(岸田國士) 著 온이퍼브 편집부訳 『일본 문화의 특질』 온이퍼브 2024年（電子書籍のみ）

박규태 『현대 일본의 순례문화』 한양대학교 출판부 2020年  
길희성他 『일본의 종교문화와 비판불교』 동연 2020年  
임영철 『가이드를 위한 일본 문화를 한국어로 소개하는 사전』 SHBOOKS 2015  
年 (電子書籍のみ)  
정형 『일본 일본인 일본 문화』 다락원 2018年  
Encyclopedia of Japan. 9 vols. Kodansha, 1983.  
Japan: An Illustrated Encyclopedia. 1 vol. Kodansha, 1993.  
JAANUS: online Dictionary of Japanese Architectural and Art Historical Terminology.  
<http://www.aisf.or.jp/~jaanus/>  
Library of Congress: Romanization Guide for Japanese.  
<https://www.loc.gov/catdir/cpso/romanization/japanese.pdf>  
Editors Canada: Professional Editorial Standards  
<https://www.editors.ca/publications/professional-editorial-standards-2016>

• 書式に関するガイドライン類

韓国国立国語院 「한국어 어문 규정」 (<https://korean.go.kr/kornorms/main/main.do>)  
トップページの各分類項目から選択して閲覧・ダウンロードできるほか、자료실 (資料室) から各種解説資料のダウンロードが可能。  
배상복 『우리말 맞춤법 수업』 사람 in 2023 年  
정희창 『우리말 맞춤법 띄어쓰기』 알에이치코리아 2020 年

## 第2部：スタイルガイドライン

### (1) スタイルガイドライン

#### (a) 全般的注意

##### 使用辞書

辞典及び参考書等については、第1部の補足資料のうち「参考資料」(p.15～17)を適切に参照し、韓国語圏旅行者が読んだ場合に違和感のない用語や表現を選択することとする。

解説に関わる参考資料は、定評があり信頼に足る辞典、出版物などを用いることとし、信憑性の低い情報源は避ける。

##### 段落、フォントなどの書式

- ・MS Wordの箇条書き機能・段落番号機能などの自動フォーマット機能は使用しないこととする。
- ・使用フォントと文字サイズは下記の通りとする。  
使用フォント：(ハングル及び漢字) Batang  
(半角数字・ローマ字) Batang  
文字サイズ：10.5 pt
- ・タイトル：太字(ボールド)で表記
- ・段落冒頭字下げ：全角1字分のスペースを入れる(MS Wordの段落書式「字下げ」は使用せず、段落冒頭には必ず全角1字分のスペースを入れる)。
- ・補足説明：固有表現など分かりにくいまたは誤解しやすい場合、補足説明を加える。短い表現で説明できる場合、該当用語の後ろに括弧を付けて追記する。ある程度詳細な説明が必要な場合、該当用語の後ろに※を付け、解説文の最後に、補足説明として追記する。

### 日本語のハングル表記

- ・日本の地名や人名、翻訳が困難な施設名、日本独自の概念について表記する場合は、「외래어 표기법」(外来語表記法、文教部告示第85-11号、1986年制定)に基づき、下表に従って表記することとする。

仮名	語頭	語頭以外
アイウエオ	아 이 우 에 오	
カキクケコ	가 기 구 계 고	카 키 쿠 케 코
サシスセソ	사 시 스 세 소	
タチツテト	다 지 쓰 테 도	타 치 쓰 테 토
ナニヌネノ	나 니 누 네 노	
ハヒフヘホ	하 히 후 헤 호	
マミムメモ	마 미 무 메 모	
ヤイユエヨ	야 이 유 에 요	
ラリルレロ	라 리 루 레 로	
ワ(ヰ)ウ(ヱ)ヲ	와 (이) 우 (에) 오	와 (이) 우 (에) 오
ン		ㄴ
ガギグゲゴ	가 기 구 계 고	
ザジズゼゾ	자 지 즈 제 조	
ダヂヅデド	다 지 즈 데 도	
バビブベボ	바 비 부 베 보	
パピプペポ	파 피 푸 페 포	
キャキュキョ	가 규 교	카 큐 교
ギャギュギョ	가 규 교	
シャシュシヨ	샤 슈 쇼	샤 슈 쇼
ジャジュジョ	자 주 조	
チャチュチョ	차 주 조	차 추 초
ニャニュニョ	냐 뉴 뇨	
ヒャヒュヒョ	햐 휴 효	

ビャ ビュ ビョ	ㅂㅑ ㅄㅑ ㅄㅑ
ピャ ピュ ピョ	ㅍㅑ ㅍㅑ ㅍㅑ
ミャ ミュ ミョ	ㅃㅑ ㅃㅑ ㅃㅑ
リャ リュ リョ	ㄹㅑ ㄹㅑ ㄹㅑ

- ・促音を表記する際は、「ㄸ」を用いて表記する。  
例：札幌 삿포로、鳥取 돗토리、四日市 ۆ카이치
- ・長母音は表記しない。  
例：九州 ㄱ주、新潟 니가타、東京 도쿄、大阪 오사카  
ただし、同一地域内に、短母音の長母音で区別される2つの地名があるような場合(例：小野と大野)には、例外として「大野」を「오오노」としてもよい。
- ・山や川などの地形、寺社や施設の名称等については、「観光立国実現に向けた多言語対応の改善・強化のためのガイドライン」(2014年3月 国土交通省・観光庁)に従って表記する。

[具体的な表記例]

- ・普通名詞部分以外の表音を表記するとともに、普通名詞部分の表意を半角スペースを空けて表記する。  
例：成田空港 나리타 공항、石狩川 이시카리 강、  
横浜港 요코하마 항구、熊本城 구마모토 성
- ・ただし、普通名詞部分を切り離してしまうと、それ以外の部分だけでは意味をなさなかったり、普通名詞部分を含めた全体が、不可分の固有名詞として広く認識されていたりする場合には、全体の表音表記に加えて普通名詞部分の表意を半角スペースを空けて表記する。  
例：立山 다테야마 산、琵琶湖 비와코 호수、  
東大寺 도다이지 절、伏見稻荷大社 후시미이나리다이샤 신사
- ・なお、普通名詞部分の韓国語の表意の発音が日本語の発音と合致する場合は、全体の表音表記とする。  
例：「山」の部分を「さん」と読む山名 후지산 (富士山)、갯산 (月山) 等

## 句読点、引用符などの符号

符号の使い方については、原則として、「한글 맞춤법」(ハングル正書法、文教部告示第88-1号、1988年制定)に準拠する。

以下、主な符号の使い方について摘記しておく。

### ・句読点

「, (쉼표)」 「. (마침표)」 「! (느낌표)」 「? (물음표)」 を用い、いずれも半角とする。

### ・複数要素の列挙

複数の単語を並列にまとめて一つの概念として示す場合には「· (가운뎃점)」を用い、文章の中で複数の単語を並列に列挙する場合には「, (쉼표)」を用いる。

例：

・ 「·」 を使用：방부·항균·방충 효과가 있는 수지를 많이 포함하고 있어서 습기가 많은 숲속에서도 보호되고 손상이 없는 상태로 남아 있습니다.

・ (日本語：防腐・抗菌・防虫効果のある樹脂を多く含んでいるおかげで湿気の多い森の中でも保護され、損傷のない状態で残されています。)

・ 「,」 を使用：야쿠시마 섬 사람들이 생활에 사용했던 목공구와 공예품, 가면, 도기 등을 전시하고 있습니다.

・ (日本語：屋久島の人々が生活で使用していた木工具や工芸品、仮面、陶器などを展示しています。)

※ 「·」 (Unicode U+00B7) は、日本語の中黒「・」 (同 U+30FB) と異なる記号であり、韓国から持参したスマートフォン等で用いるには前者が望ましい。しかしながら、日本語環境では「環境依存文字」に当たるため、どちらを用いるかは地域と協議の上で決定すること。

### ・書物、文学作品、芸術作品の題名

「『 』 (겹낫표)」を用い、書物の一部を構成する篇名などには「「 」 (홀낫표)」を用いる。

### ・引用符

「“ ” (큰따옴표)」を用い、引用文中にさらに引用がある場合は、外側に「“ ” (큰따옴표)」を、内側に「‘ ’ (작은따옴표)」を用いる。

- ・括弧（括号）

文中で注釈等を記述する場合は、半角の括弧「( )」を用いる。

- ・波ダッシュ

年代や、物の大きさ等を記述する場合は、該当する数値の間に「~ (물결표)」を用いる。

- ・斜体や太字など

斜体や太字などの文字装飾は、英語やローマ字表記などの場合を除き、原則として用いない。表現上、強調する必要がある語句には、引用符を用いるか、文の構造を工夫して強調表現を行う。

- ・その他

詳細は上掲の公式基準を参照されたい。

### 分かち書き

分かち書きについては、基本原則に加えて、例外的なものや慣用的に許容されるものなど、各種の書き方が存在する場合があるため、本事業においては、「한글 맞춤법」（ハングル正書法、文教部告示第 88-1 号、1988 年制定）に基づき、適切に決定する。

### 文体と文調

- ・情報を正確かつ明瞭に伝えることに主眼を置くこと。観光業界でよくみられる、広告を目的とした奇抜な表現や、過度に打ち解けた調子を用いた宣伝的な文体は避け、生彩に富みつつも平易で説明的な文体を用いる。本事業で作成される解説文は長期間にわたって利用され、文化的背景と興味関心が様々な幅広い年齢層の読み手の目に触れるものとなる点に留意すること（なお、第 1 部の補足資料「文体（文章のトーン&マナー）」（p.14）も併せて参照されたい）。
- ・感情的・主観的な表現を省き、客観的な表現を心がける。書き手の価値判断を伴う描写は避ける。
- ・語尾は丁寧な印象を与える「~입니다」を用い、勧誘形は「~기 바랍니다」を用いることが望ましい。

例：

- ・不適切な例：‘훗카이도·도호쿠 지방 북부의 조몬 유적군’에서 조몬 시대

사람들의 생생한 삶의 모습을 꼭 느껴보세요!

- 修正例 : ‘홋카이도·도호쿠 지방 북부의 조몬 유적군’ 에서 조몬 시대 사람들의 생생한 삶의 모습을 느껴 보시기 바랍니다.
  - (日本語 : 「北海道・北東北の縄文遺跡群」で、縄文時代の人々の生き生きとした暮らしを感じてみてください。)
- ※ 文末の勧誘形を、丁寧な印象を与える「～기 바랍니다」に修正した。

### 語句の選択と適切な言い回し

- 日本の政府機関の監修のもとで整備される解説文として、文章を作成する際は読み手を引きつける文調を保ちつつ、フォーマルな文体を用いる。
- くだけた口語表現やネット用語、若者が常用している表現、作成時点で流行している事物を用いた表現などは、長期間の利用に適しておらず、分かりにくくなる場合もあるため、避けるのが望ましい。
- 日本語の助詞「の」は韓国語では「의」が該当するが、韓国語では日本語よりも「의」を省略するため、「의」が多い文は韓国語圏旅行者にとって違和感があり、読みにくい文になる。そのため、文の構造を変えるなどして、「의」の多用をなるべく避ける。
- 英語では文法上、一つのセンテンスには一つの主語が必要であるが、韓国語は日本語と同様に必ずしも主語を必要としない。そのため、英語解説文を元にして韓国語解説文を作成する場合に、主語が残ったままであると、非常に読みにくく、くどい文章になる可能性がある。そのため、必要に応じて主語を省いたり、文の構造を変えたりするなどして、意味が伝わるように工夫する。

例 :

- 不適切な例 : 이 구역에서는 17세기의 성하 마을의 번성함이 재현되어 있으며, ~
  - 修正例 : 17 세기에 변화했던 성하 마을을 재현한 이 구역은 ~
  - (日本語 : このエリアでは 17 世紀の城下町の賑わいが再現されており、～)
- ※ 直訳すると助詞「의」(의) を多用した構造になる文を、語順を変えることで、「의」の多用を避け、意味が伝わるように調整した。

- 不適切な例 : 떠오르는 태양, 나아가 신들의 영역과 가장 가까운 장소로 여겨졌다는 이유에서 학자들은 신화의 배경으로서 이곳을 선택했다고 추측할 수 있습니다.
- 修正例 : 떠오르는 태양, 나아가 신들의 영역과 가장 가까운 장소로

여겨졌다는 이유에서 신화의 배경으로서 이곳이 선택되었다고 추측할 수 있습니다.

- (日本語：昇る太陽、ひいては神々の領域に最も近い場所とされていたため、舞台としてこの地が選ばれたと考えられます。)
- ※ 英語解説文を元にした日本語文では「학자들」(学者たち)を主語とし、「この地を選んだ」という構造であったが、主語を排して文の構造を修正した。

### 文章の組み立てと構文

- 最初の段落では読み手の興味を引きつける必要がある。解説の対象を生き生きと描き出すために、一語一語を有効に用いた文章となるよう推敲を重ねる。
- 文が長いと事物の関係性が把握しにくくなるため、一つの名詞に対して修飾部を幾つも重ねて用いず、複数の文に分けて一つの文には一つの情報だけを乗せたり、「,」を入れて文を区切ったりするなど、複雑な構造の文にならないよう留意する。こうした工夫により、多くの人にとって分かりやすく、受け入れられやすい文にすることが望ましい。
- 日本語では受動態で記述される場合であっても、韓国語では不自然な表現になることがあるため、そのまま訳さず、文脈によっては能動態に修正する。
- 日本語と韓国語は基本的に語順がほぼ同じではあるが、条件や所在地などの要素が含まれる文の場合に、日本語ではそれらの要素を先に述べ、主語が文中に来ることがあるが、韓国語では主語を文頭に述べるようにすると、より伝わりやすいよう文になると考えられる。

例：

- 不適切な例：용암류가 반드시 수형을 만들어내는 것은 아니며, 용암의 규산 함유량이 50~51%로 비교적 높고, 표면 기울기가 용암의 움직임이 너무 느리거나 너무 빠르게 하지 않는 약 3%이면서 용암류의 깊이가 반드시 구멍이 남겨질 정도로 얇다는 용암수형 형성에 딱 맞는 조건을 만족시킬 필요가 있습니다.
- 修正例：삼림에 용암이 흘러든다고 해서 반드시 수형이 만들어지는 것은 아닙니다. 수형이 생기기 위한 조건으로는 먼저 용암의 규산 함유량이 50~51%로 비교적 높아야 합니다. 또한 지형적인 면에서는 표면 기울기가 용암의 움직임을 너무 느리거나 너무 빠르게 하지 않는 약 3%이면서 흐르는 용암도 두껍지 않아 구멍이 남겨질 수 있는 정도여야 합니다.
- (日本語：森林に溶岩が流れ込めば必ず樹型ができるわけではありません。樹型

ができるための条件として、まず溶岩のケイ酸含有量が 50～51%と比較的高い必要があります。さらに地形の面では、表面勾配が、溶岩の動きが遅すぎず、また速くなりすぎない約 3%であり、また、流れる溶岩の厚みが大きくなく、空洞が残りうる程度である必要があります。)

※ 長い一文を複数の文に分けて読みやすくした。

- ・ 不適切な例：案内에서 소개되어 있는 주요 공예품은 다음과 같습니다.
- ・ 修正例：案内에서 소개하는 주요 공예품은 다음과 같습니다.
- ・ (日本語：館内で紹介している主な工芸品は以下の通りです。)

※ 日本語では受動態の「されている」と表現されることが多いが、この部分を能動態の「している」とした。

- ・ 不適切な例：～ 우미사치히코를 물에 빠지게 하자, 결국 우미사치히코는 굴복하게 되었습니다.
- ・ 修正例：～ 우미사치히코를 물에 빠지게 하자, 우미사치히코는 결국 굴복하게 되었습니다.
- ・ (日本語：～ウミサチヒコを溺れさせたところ、ウミサチヒコはついに屈しました。)

※ 「ついにウミサチヒコは」という構造であったが、主語である「ウミサチヒコは」を先に述べる構造にした。

### 外国人に馴染みのない日本語の名詞と用語

- ・ 日本語の言葉や名前、日本独自の概念を記述する際は、読み手の理解を促す解釈や情報を半角の括弧( )を用いて付記する。
- ・ ただし、括弧書きの付記を多用すると、むしろ読みにくい文になってしまう恐れがあるため、簡単な情報だけを括弧内に記載し、さらに説明が必要な場合は文を分けて記述する方が望ましい。
- ・ 日本語の漢字表現をそのまま使うことも可能ではあるが、韓国では現在、漢字をほとんど使用しておらず、若い世代では漢字を理解していない人もいる。そのため、意味を括弧書き等により付記するにあたっては、単に漢字を書くのではなく、できるだけ意味を記述した方が、多くの韓国語圏旅行者が理解しやすい解説文になると考えられる。

例：

- ・社殿 ⇒ 샤덴(신사의 건물) (神社の建物)
- ・代官所 ⇒ 다이칸쇼(막부의 직할령을 관리하는 관청) (幕府の直轄領を管理する官庁)
- ・茅葺き ⇒ 가야부키(억새, 갈대, 띠 등을 사용하는 방식) (ススキ、アシ、チガヤ等を用いる方式)
- ・回遊式庭園 ⇒ 회유식 정원(원내를 산책하며 감상하는 정원) (園内を散策しながら鑑賞する庭園)

### その他の注意すべき語句や表現

- ・韓国国内で行われているのと同様に、同音異義語の区別のために必要な場合は括弧内に漢字を付記する。
- ・漢字を付記する場合は、韓国で用いられる漢字（例：天満宮、法華經）を使用することとするが、当該漢字が環境依存文字である場合は、使用の可否について、地域担当者との協議の上、決定する。
- ・「博物館」等の普通名詞や「〇〇センター」等の外来語と異なり、韓国語での表記が困難な施設名については、その名称の重要度を考慮し、必要に応じて文中で説明を加えるなどする。
- ・掛け言葉になっているなど、日本語の名詞に重要な意味が込められている場合は、括弧書きするか、一文を加えるなどして、その意味について補足する。

例：

- ・「熊本城ミュージアムわくわく座」の説明

‘와쿠와쿠’란, 일본어로 ‘기대’ 또는 ‘흥분’하는 모습을 뜻하는 말입니다.

(日本語:「わくわく」とは、日本語で「期待」または「興奮」している様子を意味する語です。)

※ 「わくわく」の意味を追加する一文を挿入した。

- ・山梨県の郷土料理「ほうとう」の説明

다케다 신겐이 군대를 위해 면을 만드는 데 자신의 보도(寶刀, 일본어로 ‘호토’)를 사용해 반죽을 잘랐다는 이야기와 연관이 있다고 합니다.

(日本語: 武田信玄が自ら軍隊のために麵を作るのに、自らの宝刀を使って生地を切ったという話と関連があるといわれています。)

※ 「宝刀」について、ハングルだけでは伝わりにくいため漢字を添え、さらに、料

理名「ほうとう」との関連がわかるよう「日本語で‘ほうとう’」と書き添えた。

### 各媒体における執筆ガイドライン

媒体ごとに適切なトーン&マナーと文字数のガイドラインを設定している（第1部の補足資料「媒体の種類と特徴」(p.14~15)を参照）。

#### ・看板

100~300字程度（長くてもなるべく400字以内とする）。

各段落の冒頭には必ず1字分のスペースを入れて段落の位置を示す（段落の間を1行空けることはしない）

- 韓国語圏旅行者が現地で読むことを想定。
- 文化的・歴史的事実、及び重要な背景的情報を文中に盛り込む。
- 訪問者の視線を付近のものに誘導するように情報を提示する。
- まず、読み手の目の前にある対象物（建物、彫像等）について説明する。次に、対象物の背景的情報を説明する。その上で、対象物の周囲の建物や関連スポットについての情報を付け加える、という説明順序を意識する。
- 時間的に前後するような説明は避ける。時系列に沿った解説が望ましい。

#### ・ウェブサイトと電子看板

文章量は場合によって異なる。長くなりすぎないように注意する。

インデントは用いず、段落間は1行空ける。

長いセクションは小見出しをつけて分割する。

- 導入部は読み手に魅力を感じさせる必要がある。導入部では、まず観光地についての概要となぜその場所が重要なのかを伝える。その上で、その場所へのアクセスなどの詳細を述べる。
- 生き生きとした熱心な文章であってもよいが、感情的な表現、誇張した表現にならないよう注意する。

#### ・印刷物

文章量は場合によって異なる。書かれたものが印刷物の仕様に合わせて調整されることがある。

各段落の冒頭には必ず1字分のスペースを入れて段落の位置を示す（段落の間を1行空けることはしない）。

- 現地で読まれるだけでなく、訪れる前や訪れた後にも読まれる可能性がある。
- 執筆対象の背景、見所、逸話、名産品、アクセス情報などを網羅する。

・音声ガイド・AR（拡張現実）のSCRIPT

長さは場合によって異なるが、各セクション（部分）は、多くの場合1分間分に満たない。

- ローマ字で表記される日本語の語句は、ナレーターが長音を発音できるように、マクロン（長音符）などを用いて長音を明記する。
- 聞き手にとって聞き取りづらいためまたは理解しづらい可能性がある言葉は避ける。
- 聞き手の関心を引きそうな対象について解説する。
- 情報を付け加えることで分かりやすくなる説明がないか検討する。
- 原稿を見直す際は、実際に声に出して読んでみる。

**(b) 表記方法**

**人物・施設、流派・宗派、生物等の名称**

人物・施設等の名称（固有名詞）は、下記の優先順位に従って表記する。

- ①「博物館」「公園」等、韓国語への翻訳が可能な普通名詞は韓国語に翻訳し、普通名詞部分を除く固有名詞部分は、ハングルで表音表記する。
- ②鉄道駅やバス停の名称等、目的地へのアクセスに必要な地点の名称については、旅行者本人が現地でも発音して日本人に尋ねる場合を考慮し、全体を表音表記することが望ましい。ただし、鉄道やバスの車内で表示される表記との間で齟齬があることは避けるべきであるので、必要に応じて、地域や運行会社等と協議して決定すること。

・施設、会社、ブランドなどの名称

下記の優先順位に従って表記する。

- ①ネット上の公式サイトに正式な韓国語版（機械翻訳ではない）がある場合、これを採用する。
- ②有名ブランドで定訳がある場合、これを採用する。
- ③正式な韓国語訳がなく、定訳もない場合は、(a)全般的注意の「日本語のハングル表記」に基づいて、ハングルで表記する。ただし、その名称が外国語由来である場合は、外国語での表記を参考にしてハングルで表記する（語中の「l」と「r」の区別、語末の「ng」など）。

例：

東京スカイツリー → 도쿄 스카이트리 (①の例)

ジブリ美術館 → 지브리 미술관 (②の例)

ユニクロ → 유니클로 (②の例)

サントリー美術館 → 산토리 미술관 (③の例)

・芸術、芸能、工芸、宗教、思想、信仰などの流派・宗派などの名称

著名な語彙、あるいは専門的な用語であっても、韓国語に対応する語彙があるものについては韓国語の表記だけで十分だが、それ以外の語彙については、括弧書きによる付記、または文中での内容追加により、説明を加えて理解を助けるようにすることが望ましい。なお、この説明は当該解説文（複数の解説文がまとめて提示される場合はその一かたまりの文）の初出においてのみとし、繰り返しての説明は行わない。

ジャンル	用語例	英語	韓国語	備考
絵画	日本画	Japanese-style painting	일본화	
	浮世絵	Ukiyo-e woodblock print	예술적인 목판화인 우키요에	「芸術的な木版画」と説明追加
芸能	歌舞伎	Kabuki	가부키	
	能	Noh	노(가면을 쓰고 아름다운 옷을 입고 상연되는 극)	「仮面を被り、美しい服を着て上演される劇」と説明追加
	神楽	Kagura	가구라(신에게 봉납하는 음악과 춤)	「神に奉納する音楽と踊り」と説明追加
思想・信仰	修験道	Shugendo	산악 신앙과 불교가 융합된 슈겐도	「山岳信仰と仏教が融合した」と説明追加
	真言宗	Shingon school	진언종(眞言宗)	韓国にもある宗派名であるため韓国での漢字の読みで表記

	日蓮宗	Nichiren school	니치렌종(日蓮宗)	「日蓮」が人名であるため、「ニチレン宗」と表記
建築様式	床の間	Alcoves	도코노마(일본식 방의 상좌에 바닥을 한층 높게 만든 곳)	「日本間の上座に、床を一段高くして作った所」と説明追加
	唐破風	Cusped-gable roof	가라하후(중앙은 활꼴에 양끝이 곡선형으로 된 박공의 한 가지)	「中央は弓なりに、両端は曲線状になった破風の種類」と説明追加
工芸品・伝統技術	寄木造	Yosegi-zukuri	요세기즈쿠리(머리와 몸통, 손발을 따로 만들었다가 나중에 조립하는 방식)	「頭や胴、手足を別にして後から組み合わせる方式」と説明追加
	肥後象嵌	Higo Inlay	히고 상감	
	博多人形	Hakata Ningyo dolls	하카타 인형	

## ・植物、動物の名称

植物・動物などの生物名は、ラテン語の学名に基づいた韓国語名称を用いるのが望ましい。

日本の固有種や亜種・変種、命名の時期が比較的近いものなど、辞書には定着した韓国語名称がない場合には、属名または同属の近い生物を参考に、英語または日本語の名称をハングルで表記した上で、その後に括弧書きでラテン名（不明な場合は英語名）を示す。

なお、同一解説文の中で同一の括弧書きは2度以上用いない（初出箇所のみを示す）。

例：

아오시마섬에서 볼 수 있는 독특한 식물로는 독을 품은 알로카시아(*Alocasia odora*), 석산의 일종인 문주란(*Crinum asiaticum*), 다정큼나무(*Rhaphiolepis umbellata*) 등이 있습니다.

(日本語：この島に生えるその他の特筆すべき植物には、毒のあるクワズイモ (*Alocasia odora*)、彼岸花の1種であるハマユウ (*Crinum asiaticum*)、シャリンバイ (*Rhaphiolepis umbellata*) などがあります。)

※ ハマユウとシャリンバイはラテン語学名に基づいた韓国語名を記載し、クワズイモは韓国語名がないため、英語名を記載した。

## 暦と時代

### ・年代

各時代の年代的範囲については、第2部の補足資料「日本の歴史年表」を参照。年代の表記には原則として西暦を用いる。和暦（元号）は、文脈上必要な場合のみ、西暦と併記する形でハングルで表音表記する。

歴史上の人物については、西暦で生没年を付記する。時代、歴史上の出来事、文化財に指定された年などについても西暦で示す。

人物の生年が不明な場合は、「xxx 경」(頃)を使うか、大まかな時代を述べる(例：19세기에 활약)。ただし、生没年が不明な人物の時代が文脈上明らかな場合は、それで十分である(別途明記する必要はない)。人物の没年が不明、またはその人物が存命中であり、かつ時代が文脈から明らかでない場合、必要であれば生年のみを示す形式でもよい。

確定していない年代(例：豊臣秀吉の生年、1536年又は1537年)については、対象となる観光拠点または地域協議会が指定する年代を使う。

・人物の生没年、または開始年と終了年

例：

도쿠가와 이에야스(1543~1616) (徳川家康)

제아미(1363년경~1443년경) (世阿弥)

・時代

読み手は日本の時代区分と元号に馴染みが薄いと考えられる。読み手に解説文の内容をしっかりと伝えるために、対応する西暦年や世紀を併記すること。

本事業で用いる時代区分と元号については、第2部の補足資料「日本の歴史年表」を参照。本事業では、元号と時代を次のように区別する。

- ・元号：平成、明治、寛政などの時代区分。西暦を主とし、必要な場合は元号を括弧書きで併記する（例：1945년(쇼와 20년)）。

→一部の元号は、芸術や文化の時代の区切りを示す。「분카·분세이 문화(1804~1829)」(文化文政文化)のように西暦年を併記する。

- ・時代（歴史上の区分）：一般的な時代区分。

→縄文・弥生から近代・現代までの歴史の区分を指す。例えば、元禄文化（1688-1704）、江戸時代（1603-1867）など。第2部の補足資料「日本の歴史年表」を参照。

다이쇼 시대(1912~1926) (大正時代)

조몬 시대(기원전 10,000년~300년) (縄文時代)

### (c) 数値に関する書式

#### 数字の表記方法

4ケタ以上の数を表記する場合は、読みやすさを考慮して、3ケタごとに「, (半角カンマ)」で区切ってよい。ただし、4ケタの数字は必ずしも区切らなくてもよい。西暦の年号を表記する場合は区切らないで表記する。

適切な例：1,546,000 명      不適切な例：154 만 6 천명 (人数)

適切な例：1969 년      不適切な例：1,969 년 (西暦)

#### 度量衡

メートル法の単位については、原則としてアルファベットで表記するものとするが、「トン」(톤) など慣例的にハングルで表記されるものについては、ハングル表記とする。

「平方」「立方」を含む単位については、アルファベットとその右肩に上付き数字を組み合わせた表記とし、環境依存文字である「m<sup>3</sup>」「km<sup>3</sup>」等は、文字化けを避けるために使用しないことが望ましい。

種別	日本語	英語	韓国語
長さ	キロメートル	kilometer	km
	メートル	meter	m
	センチメートル	centimeter	cm
	ミリメートル	millimeter	mm
重さ	トン	ton	t(톤)
	キログラム	kilogram	kg
	グラム	gram	g
	ミリグラム	milligram	mg
面積	ヘクタール	hectare	ha(헥타르)
	アール	are	a(아트)
	平方キロメートル	square kilometer	km <sup>2</sup>
	平方メートル	square meter	m <sup>2</sup>
	平方センチメートル	square centimeter	cm <sup>2</sup>
容積	キロリットル	kilolitre	kl
	リットル	litre	l

	ミリリットル	millilitre	ml
	立方メートル	cubic meter	m <sup>3</sup>
	立方センチメートル	cubic centimeter	cm <sup>3</sup>

歴史的な記述において、例外的に尺貫法の単位を用いる場合、韓国にも伝統的な単位として、日本と同様の尺貫法の単位が存在するため、韓国語に訳して表記することができる。しかしながら、現代では使用されていない単位であるため、メートル法によるおおよその大きさを併記する。

例：1평(약 3.3m<sup>2</sup>) 1칸(약 1.8m)

また、日本語で既に存在している解説文を単純に外国語訳した場合によくみられる例として、部屋の広さを説明する際の「畳○枚分」や「東京ドーム○個分」といった表現があるが、畳や東京ドームの大きさに対する実感を持たない外国人にとっては理解し得ないものであるため、避けるべきである。

## 温度

温度は原則として摂氏を用いるものとし、数字の後に「°C」を付けて示す。

例：36.5°C -10°C

## 金額

金額は、アラビア数字（算用数字）を用いる。4ケタ以上の数字は、3ケタごとに「,（半角カンマ）」で区切る。ただし、紙幣について記述する場合は、「1000엔 지폐」のように、桁区切りで区切らない。

通貨単位の表示には、通貨記号（¥・\$・₩など）は使用しない。数字の後に「엔」「달러」「원」などを付けて金額を示す。

なお、金額が大きい場合には、「10만엔」のように「만」（万）、「억」（億）等の表記を用いてもよい。

### (d) その他の注意事項

#### 文化財、天然記念物、世界遺産などの指定について

文化財や天然記念物については、できるだけ日本語の表記を生かして訳すが、必要な場合は括弧書きで訳語や解釈を付記する。

指定年が分かり、それが読み手への理解を促す場合は指定年を付記する。

例：

文化財 ⇒ 문화재

重要文化財 ⇒ 중요문화재

国宝 ⇒ 국보

重要美術品 ⇒ 중요미술품

国指定名勝 ⇒ 국가지정명승

天然記念物 ⇒ 천연기념물

無形文化財 ⇒ 무형문화재

世界文化遺産 ⇒ 세계문화유산

ユネスコ無形文化遺産 ⇒ 유네스코 무형문화유산

#### 包摂的（インクルーシブ）な表現を用いる

文章中のジェンダー、エスニシティ、信仰などに関わる事柄の表現について配慮すること。

### **訳語の選択**

韓国で一般的に用いられている用語を選択する。ただし、固有名詞において用いられている場合は原文に従った訳にする。

原文の同一ワードに対する訳語は、同一解説文の中では統一する。

例：

ロープウェイ ⇒ 케이블카

富士山パノラマロープウェイ ⇒ 후지산 파노라마 로프웨이 (固有名詞の場合)

### **温泉の効能について書く時の注意**

温泉の効能について書く（翻訳する）際は、科学的に検証済みの情報と経験的な知見を区別するよう十分注意する必要がある。(原文以上に) 効果を誇張することを避ける。

## (2) 第2部の補足資料

本補足資料に記載の内容には変更等の可能性もあるため、あくまで参考資料として利用するものとし、可能な限り最新の情報を確認すること。

また、本補足資料の表に示した用語・訳例は、あくまで一例として参照されたい。実際の作成では、それぞれの説明対象物の性格や、説明文が用いられる場面、文章の読みやすさや文脈を考慮して、最適な訳語を選択することが必要である。

### 日本の歴史年表

時代		文化	
日本語	韓国語	日本語	韓国語
原始	원시		
縄文時代	조몬 시대(기원전 10,000년~300년)		
弥生時代	야요이 시대(기원전 300년~기원후 300년)		
古墳時代	고분 시대(250~552)		
古代	고대		
大和	야마토 시대(300~710)		
飛鳥時代	아스카 시대(552~645)		
		白鳳文化	하쿠호 문화(645~710)
奈良時代	나라 시대(710~794)	天平文化	덴포 문화(710~794)
平安時代	헤이안 시대(794~1185)	弘仁・貞觀文化	고닌・조간 문화(794~894)
		藤原時代	후지와라 시대(897~1185)
中世	중세		
鎌倉時代	가마쿠라 시대(1185~1333)		
建武の新政	겐무 신정(1333~1336)	北山文化	기타야마 문화(1367~1408)
室町時代	무로마치 시대(1366~1573)	東山文化	히가시야마 문화(1449~1473)
南北朝時代	남북조 시대(1336~1392)		
戦国時代	전국 시대(1467~1568) [연대 구분에 관해서는 여러 설이 있음]		
近世	근세		
安土桃山時代	아즈치모모야마 시대(1568~1603)	桃山文化	모모야마 문화(1568~1600)

江戸時代	에도 시대(1603~1867)	元禄文化	젠로쿠 문화(1688~1704)
		文化文政	분카·분세이(1804~1829)
近代	근대		
明治時代	메이지 시대(1868~1912)		
大正時代	다이쇼 시대(1912~1926)		
昭和時代	(제2차 세계대전 전)쇼와 시대(1926~1945)		
現代	현대		
昭和時代	(제2차 세계대전 후)쇼와 시대(1945~1989)		
平成時代	헤이세이 시대(1989~2019)		

Japan Style Sheet. Society of Writers, Editors, and Translators, Tokyo (2020)をもとに作成

## 神社仏閣

### ・名称

次の表に示すように、日本語には寺院や神社を分類する呼称が複数ある。

(神社の場合) ~神社、~神宮、~大社など

(寺院の場合) ~寺、~院など

神社については、「神社」「神宮」等、神社であることが明確な名称については、韓国での漢字の読みを用いて表記する。「天満宮」「大社」「稲荷」等については、各名称の表音表記に加えて「神社」(신사)という語を、半角スペースを空けて表記する。

寺院については、各名称の表音表記に加えて「寺」(절)という語を、半角スペースを空けて表記する。

日本語	英語	韓国語	解説
神社	Shinto shrine	신사	
神宮	Shinto shrine	신궁	
天満宮	Tenman shrine	덴만구 신사	「天満宮」の表音に、「神社」という語を追加

大社	(grand) shrine	다이샤 신사	「大社」の表音に、「神社」という語を追加
～寺（てら、例：清水寺）	temple	기요미즈데라 절	寺名の表音に「寺」という語を追加
～寺（じ、例：圓教寺）	temple	엔교지 절	同上
～院（例：寂光院）	temple	жат코인 절	同上

・神社の施設・設備・参拝に関する用語

日本語	英語	韓国語	解説
社殿	shrine building	샤덴(신사의 건물)	「神社の建物」と説明追加
本殿	main sanctuary	혼덴(신을 모시는 건물)	「神を祀る建物」と説明追加
拝殿	worship hall	하이덴(참배하기 위한 건물)	「参拝するための建物」と説明追加
末社	subsidiary shrine	맛샤(큰 신사에 소속된 작은 신사)	「大きな神社に属する小さな神社」と説明追加
奥宮	inner shrine	오쿠노미야(가장 안쪽에 있는 신사)	「最も奥にある神社」と説明追加
鳥居	gate	도리이	
石段	stone step	돌계단	「石階段」
参道	approach	참배길	「参拝道」
手水舎	hand-washing fountain	데미즈야(참배하기 전 물로 손이나 입을 깨끗이 씻는 장소)	「参拝前に手や口を水で清める場所」と説明追加
石灯籠	stone lantern	석등롱	
狛犬	guardian figures	고마이누(악귀를 내쫓고 절이나 신사와 같은 신성한 장소를 수호하는 사자와 닮은 석상)	「悪霊を追い払い、寺や神社などの神聖な場所を守る、獅子に似た石像」と説明追加
絵馬	votive tablet	에마(소원을 적어서 신사나 사원에 봉납하는 목판)	「願いごとを書いて神社や寺に納める木製の板」と説明追加
賽銭箱	offertory box	새전함	
御朱印	seal	고슈인(일본 전국의 사원이나 신사가	「日本全国の寺院や神社が発行する手書きの証書」と説明追加

		발행하는 손으로 쓴 증서)	
神輿	portable shrine	미코시 (신을 태운 가마)	「神を乗せた輿」と説明追加

・日本の神の名前

ハングルは表音文字であるため、固有名詞は下表のようにそのまま表音表記すればよい。しかしながら、神道の神の名前は、同じ漢字で複数の読み方が存在する場合はしばしば存在する。そのため、神の名前については、地域担当者と協議の上、どの読みを採用するか事前に検討し、曖昧な状態で作業を進めないことが重要である。

日本語	英語	韓国語	解説
味耜高彥根命	Ajisukitaka hikone no Mikoto	아지스키타카히코네노미코토	
天兒屋根命	Ame no Koyane no Mikoto; the god of wisdom	아메노코야네노미코토	
天照大御神	Amaterasu Ōmikami	아마테라스오미카미	
天押雲根命	Ame no Oshikumone no Mikoto; the god of water and purification	아메노오시쿠모네노미코토	
經津主命	Futsunushi no Mikoto; the god of swords	후쓰누시노미코토	
比売神	Himegami	히메가미	
大己貴命	Ōnamuchi no Mikoto	오나무치노미코토	
瀬織津姫	Seoritsu-hime; goddess of exorcism	세오리쓰히메	
須佐之男命 (素戔嗚尊)	Susanoo no Mikoto	스사노오노미코토	

武甕槌命	Takemikazuchi no Mikoto; the god of thunder	다케미카즈치노미코토	
田心姫命	Tagorihime no Mikoto	다고리히메노미코토	
豊受大御神	Toyouke no Omikami	도요우케노오미카미	

・寺院の施設・設備

日本語	英語	韓国語	解説
山門	main gate	산문(사찰로 들어가는 문)	「寺院に入る門」と説明追加
本堂	main hall	본당	
講堂	lecture hall	강당	
鐘楼	bell tower	종루	
宿坊	lodgings for pilgrims at a temple	슈쿠보(승려나 참배자를 위한 숙박시설)	「僧侶や参拝者のための宿泊施設」と説明追加
客殿	guest hall	가쿠덴(손님을 맞는 전각)	「お客様を迎える御殿」と説明追加
護摩	Goma fire ritual	고마기라 불리는 나무판을 신성한 불에 태우는 고마 의식	「護摩木と呼ばれる木の板を神聖な火で燃やす護摩の儀式」と文中で説明
末寺	subtemple	마쓰지(큰 절에 소속된 작은 절)	「大きい寺の配下に属する寺」と説明追加
総本山	head temple	총본산	
塔頭	subtemple	탑두(사원 부지 내에 지어진 작은 사원)	「寺院の敷地内に建てられた小さな寺院」と説明追加

・仏、菩薩

仏教用語に関しては、韓国語に訳せるものが大部分であり、そのまま韓国語訳すればよい場合が多い。ただ、仏像等の名称を漢字の韓国語読みで表記することになるため、漢字を添えた方がよいのではないかという気遣いも生じ得るが、括弧書きによる漢字併記の繁用により、読みにくい文になってしまう恐れがあるため、漢字併記は必要最小限にとどめるのが望ましい。なお、日本独自の概念等については、必ず括弧書きによる付記、または文中での内容追加により、説明を加える。

日本語	英語	韓国語	解説
阿弥陀如来	Amida, or Amida (Amitabha) Buddha	그 광명으로 영원한 은혜를 베푼다고 하는 아미타여래	「その光明により永遠の恩恵を与えるとされる」と文中で説明
薬師如来	Buddha of Healing	약과 치유의 부처인 약사여래	「薬と癒しの仏である」と文中で説明
地藏菩薩	Jizo	지장보살	
観音菩薩	Kannon	자비의 보살인 관음보살	「慈悲の菩薩である」と説明追加
千手観音	Thousand-Armed Kannon	천개의 손을 가진 자비의 보살 천수관음	「千の手を持つ慈悲の菩薩である」と文中で説明
十一面観音	Eleven-Faced Kannon	십일면관음	
弥勒菩薩	Buddha of the future (Maitreya)	먼 미래에 나타날 다음 세상의 부처인 미륵보살	「次の仏として遠い未来にこの世に現れるとされる」と文中で説明
日光菩薩	Sunlight Bodhisattva	일광보살	日光菩薩と月光菩薩を列挙した後、「각각 태양과 달을 상징하는 보살」(それぞれ太陽と月を象徴する菩薩)と説明追加
月光菩薩	Moonlight Bodhisattva	월광보살	上段参照
不動明王	Wise King	불교의 오대 명왕 중 하나인 부동명왕	「仏教の五大明王のうちの一人である」と文中で説明
愛染明王	a deity that transforms worldly desire into spiritual awakening	애염명왕	

権現	the appearance of a Buddha in the form of a Shinto deity	곤젠, 즉 신토의 신으로 화신하여 사람들을 구원으로 이끄는 부처님	「すなわち、神道の神に化身して人々を救いに導く仏様」と文中で説明
七福神	Japan's Seven Gods of Fortune	칠복신(행복을 가져다준다고 일본에서 숭상받고 있는 일곱 신)	「幸福をもたらすとして日本で信仰されている七体の神」と説明追加

・その他信仰に関する用語

日本語	英語	韓国語	解説
神仏習合	fusion of Buddhism and Shinto	신도와 불교가 융합된 ‘신불습합’	「神道と仏教が融合を習合した信仰の形である」と文中で説明
富士講	the Fujiko faith, a form of popular Mt. Fuji worship	17세기에 성립된 후지산을 신앙의 대상으로 삼는 민간 신앙 후지코	「17世紀に成立した、富士山を信仰の対象とする民間信仰」と文中で説明
菩提寺	the future burial site	보다이지(한 가문의 일족이 선조의 혼령을 기리기 위해 지은 사원)	「ある家の一族が先祖の霊を弔うための寺院」と説明追加
禊	Purification	밭계	
清め	cleansing	정화	
雨乞い	Praying for rain	비에 대한 기원	直接訳せる語がないため、「雨に対する祈願」と翻訳

・宗教建築

日本語	英語	韓国語	解説
五重塔	five-story pagoda	오층탑	
八幡造り	<i>hachimanzukuri</i> architectural style	두 채의 건물을 앞뒤로 연결하여 하나의 신전으로 만드는 하치만즈쿠리	「二つの建物を前後に繋いで一つの社殿とした」と文中で説明
内陣	the hall's center	나이진 (본존을 안치하는 신성한 장소)	「本尊を安置する神聖な場所」と説明追加
檜皮葺	cypress bark roof	노송나무 껍질을 사용한 히와다부키	「ヒノキの樹皮を用いて」と文中で説明
相輪	<i>sōrin</i> shaft	상륜	

## 自然地名

日本は山、峠、丘陵、高原、平野、岬、海岸、谷、川、小川、湿原など、北半球の他の地域でもみられる地形をふんだんに備えた国である。しかしながら、それぞれの名称により構造が異なるため、韓国語に訳す際には、どのような地形であるか分かるように、訳語中に地形を示す一般名詞を含んだ訳とすることが望ましい(具体的な解釈については、p.19～20「日本語のハングル表記」、及び「観光立国実現に向けた多言語対応の改善・強化のためのガイドライン」(2014年3月 国土交通省・観光庁)参照)。

日本語	英語	韓国語
「普通名詞部分以外の表音+地形を示す普通名詞部分の表意」		
銀山川	Ginzan River	긴잔 강
小川原湖	Lake Ogawara	오가와라 호수
菊池溪谷	Kikuchi Gorge	기쿠치 계곡
鵜戸崎	Cape Udo	우도 곶
鳥居地峠	Toriichi Pass	도리이치 고개
佐渡島	Sado Island	사도 섬
「普通名詞部分も含めた全体の表音+地形を示す普通名詞部分の表意」		
宮之浦岳	Mt. Miyanoura	미야노우라다케 산
大室山	Mt. Omuro	오무로야마 산
荒川	Ara River	아라카와 강
西湖	Lake Saiko	사이코 호수
奄美大島	Amami Oshima Island	아마미오시마 섬
「普通名詞部分の韓国語の表意の発音が日本語の発音と合致する場合」		
富士山	Mt. Fuji	후지산
岩木山	Mt. Iwaki	이와키산

## 植物

韓国語での正式名称を確認できない場合は、属名などを採用した上で、後ろに学名または英語名称を補う。

日本語	英語	韓国語
マリモ	marimo	비로도와 같은 둥근 집합체를 만드는 조류 마리모(「비로드のような丸い集合体を作る藻類である」と文中で説明)
ブナ	beech	너도밤나무
ミズナラ	mizunara oak	물참나무(Quercus crispula)
ケヤキ	zelkova	느티나무

ツガ	Japanese hemlock	솔송나무
ヒノキ	<i>hinoki</i> cypress	편백나무
스기	<i>sugi</i> ; <i>cryptomeria</i>	삼나무
모미	<i>momi</i> fir	전나무
카라마ツ	Japanese larches	낙엽송
카에데	maple	단풍나무
타브노키	Japanese bay tree	후박나무
비로우	<i>biro</i> or fountain palm ( <i>Livistona chinensis</i> )	비로야자( <i>Livistona chinensis</i> )
우바메가시	<i>ubame</i> oak	졸가시나무( <i>Quercus phillyraeoides</i> )
아카가시	<i>akagashi</i> red oak	붉가시나무
月桂樹	<i>gekkeiju</i> ; Japanese bay	월계수
屋久杉	<i>yakusugi</i> wood	야쿠스기 삼나무
가쥬마루	Chinese banyan ( <i>Ficus microcarpa</i> )	가주마루(대만고무나무, <i>Ficus microcarpa</i> )
카킥바타	rabbit-ear iris	제비붓꽃
クチ나シ	gardenia	치자나무
푸트우카즈라	<i>futokazura</i> ( <i>Piper kadsura</i> )	후추등( <i>Piper kadsura</i> )
마루바닛케이	<i>maruba-nikkei</i> laurel ( <i>Cinnamomum daphnoides</i> )	마루바닛케이 ( <i>Cinnamomum daphnoides</i> )
스스키	<i>susuki</i> ( <i>eulalia</i> grass)	억새
코우호네	East Asian yellow water-lily ( <i>Nuphar japonica</i> )	개연꽃
이와타바코	<i>iwatabako</i> ( <i>Conandron ramondioides</i> )	이와타마코( <i>Conandron ramondioides</i> )
ハマボウ	Hamabo hibiscus ( <i>Hibiscus hamabo</i> )	황근( <i>Hibiscus hamabo</i> )
킥네노카미소리	“Fox’s razor” ( <i>Lycoris sanguinea</i> )	기쓰네노카미소리( <i>Lycoris sanguinea</i> )
폰칸	<i>Ponkan</i> tangerines ( <i>Citrus poonensis</i> )	폰칸( <i>Citrus poonensis</i> )
코케모모	lingonberry	월귤나무
카와노리	<i>kawanori</i>	민물김

## 動物

韓国語での正式名称を確認できない場合は、属名などを採用した上で、後ろに学名または英語名称を補う。

日本語	英語	韓国語
サシバ	gray-faced buzzard ( <i>Butastur indicus</i> )	왕새매( <i>Butastur indicus</i> )
オオルリ	blue-and-white flycatcher	큰유리새
ヤマドリ	copper pheasant	코피긴꼬리꿩
ウグイス	Japanese bush warbler	휘파람새
ヤクシマザル	Yakushima macaque ( <i>Macaca fuscata yakui</i> )	야쿠시마원숭이( <i>Macaca fuscata yakui</i> )
ムササビ	Japanese giant flying squirrel	날다람쥐
ヤマネ	yamane dormouse ( <i>Glirulus japonicus</i> )	겨울잠쥐( <i>Glirulus japonicus</i> )
エラブオオコウモリ	large Erabu fruit bat ( <i>P. d. dasymallus</i> )	에라부 큰박쥐( <i>P. d. dasymallus</i> )
アカウミガメ	loggerhead turtle	붉은바다거북
タカチホヘビ	takachiho odd-scaled snake ( <i>Achalinus spinalis</i> )	다카치호뱀( <i>Achalinus spinalis</i> )
カジカガエル	kajika frog ( <i>Buergeria buergeri</i> )	기생개구리( <i>Buergeria buergeri</i> )
ヤマトシジミ	Japanese basket clams ( <i>Corbicula japonica</i> )	일본재첩( <i>Corbicula japonica</i> )
ヒメマス	kokanee salmon	히메마스(평생 민물에서 살게 된 홍연어) (「生涯を淡水で過ごすことになったベニザケ」と説明追加)
ヤマメ	yamame (landlocked masu salmon)	산천어
カラスアゲハ	Japanese peacock swallowtail ( <i>Papilio dehaanii</i> )	산제비나비( <i>Papilio dehaanii</i> )
ヒメボタル	Luciola parvula firefly (himebotaru)	히메보타루( <i>Luciola parvula</i> )
ニホンカワトンボ	broad-winged damselfly ( <i>Mnais costalis</i> )	니혼카와톤보( <i>Mnais costalis</i> ) 잠자리
ハナガタサンゴ	lobophyllia lobed brain coral	하나가타산호( <i>lobophyllia</i> )

食・食文化

日本語	英語	韓国語	解説
日本酒	<i>Sake</i> (rice wine とは表現しない)	일본술	
ねぎ焼き	<i>negiyaki</i>	네기야키(파전)	類似する韓国料理として、「パジョン」と説明追加
つけ揚げ	<i>tsukeage</i>	쓰케아게	「어묵」(練り物)であることを文中で説明
から揚げ	<i>karaage</i>	닭튀김	
ほうとう	<i>Hoto</i> Noodles	호토	「밀가루로 만든 두꺼운 면으로 채소를 가득 넣은 된장맛 국물에 담긴 형태로 제공」(小麦粉でできた厚みのある幅広麺で、野菜のたくさん入った味噌味の汁に入った形で提供)と文中で説明
辛子蓮根	<b>Spicy</b> Deep-Fried Lotus Root ( <i>Karashi Renkon</i> )	가라시렌콘(겨자 된장을 채워 넣어 만든 연근 튀김)	「辛子味噌を詰めた蓮根揚げ」と説明追加
草餅	<i>kusamochi</i>	쭈떡	
首折れ鯖	“broken-necked blue mackerel”	구비오레사마(머리가 꺾인 고등어)	「頭が折られた鯖」と説明追加(屋久島における漁獲後のサバの処理)
鯉節	dried skipjack	가쓰오부시(가다랑어의 살을 훈연하여 건조시킨 식품. 국물을 내는 데 널리 쓰인다)	「カツオの肉を燻蒸して乾燥させた食品。出汁を取るために広く用いられる」と説明追加
豚骨ラーメン	<i>tonkotsu</i> pork-bone broth ramen	돈코쓰(돼지 뼈 수프) 라멘	「豚の骨のスープ」と説明追加

その他

日本語	英語	韓国語	解説
和歌	Japanese poetry	와카(일본 전통 정형시)	「日本の伝統定型詩」と説明追加
大名	warlord	다이묘(넓은 영지를 다스린 대영주)	「広い領地を治めた大領主」と説明追加
莊園	agricultural estate (shoen) owned by the court	쇼엔(큰 사원이나 신사, 귀족이 자신들의 재력으로 새롭게 개간한 땅)	「大きな寺院や神社、貴族がその財力で新しく開墾した土地」と説明追加
環状列石	Stone Circle	환상열석(거대한 선돌이 둥글게 배치된 유구)	「巨大な石を丸く配置した遺構」と説明追加
土坑墓	burial pit	토광묘(타원형의 구덩이를 파고 시신을 매장한 무덤)	「土を楕円形に掘り下げて遺体を埋葬した墓」と説明追加

以上